

### 第3回「涙の分析」

高校、大学と運動部に所属し、一生懸命汗をかくことが、青春の特権と思い、それに酔いしれ学業は疎かにした。しかし、静岡銀行に入り、これからが本当の勉強の始まりであるということを本能的に感じていた。苦しく長い稽古から解放され、充分仕事に打ち込める時間があった。「よし、やるぞ」と心が躍った。

手始めに「経営分析」という本を読んだ。その本の冒頭の「涙の分析」という文章に心が惹かれた。涙をリトマス試験紙で分析すると、単に大量の水と少量の塩に分析される。ところが、人間の涙には、親子の永遠の別れの涙、志望校に見事合格した喜びの涙、理不尽な誹謗中傷を受け、人知れず流す悔し涙等々、涙の種類は多岐にわたる。金融マンたる者は財務分析する態度としてリトマス試験紙により一括りで分析するような無機質な行員になってはいけないという内容であった。私はこの考え方をベースに仕事に取り組んできたことにより社会人として大切な「理」と「情」の考え方を身に付けた。財務諸表を数期間にわたり読み込むと同時に、会社現場を見、財務の動きと現場の動きがどう原因し、結果になっているかを直視し、想像力を駆使した。

もちろん代表者の人柄・経歴・風評は最重要なポイントとなる。代表者は高い理想を掲げているが、その会社を訪問したところ、受付の女性2人がペチャクチャと私語を話していたら、この会社は大丈夫だろうかと思う。

松崎町役場は、町民の皆様から見て、どう思われているだろうか。